

筑後川水系田手川 広域河川改修事業

事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生
(主な浸水被害)

《昭和28年6月洪水》

浸水戸数 2,540戸

農地浸水面積 2,350ha

《平成2年7月洪水》

浸水戸数 487戸

農地浸水面積 3,390ha

《平成21年7月洪水》

浸水戸数 17戸

農地浸水面積 707ha

事業目的

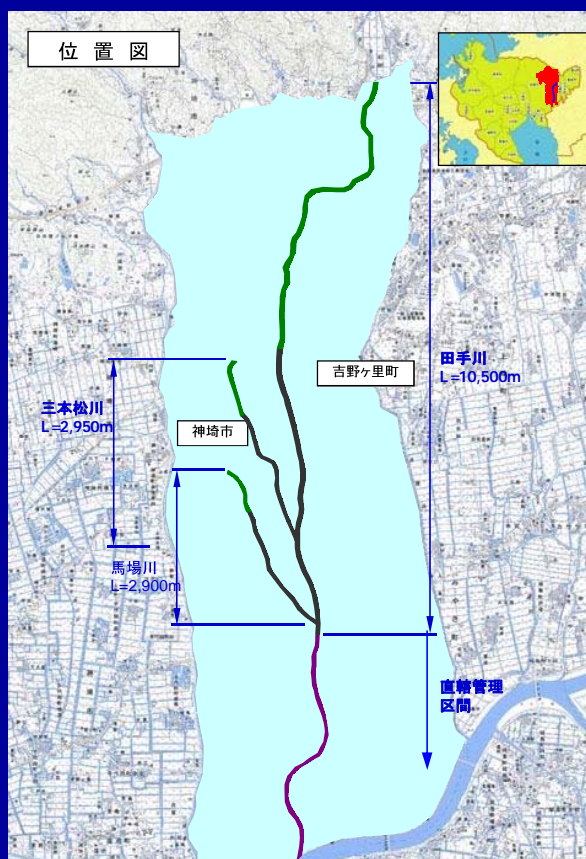
○浸水被害の軽減を図る

- ・流路是正、狭窄部解消を実施
- ・治水安全度の向上を図る

計画流量 $490\text{m}^3/\text{s}$

計画治水安全度 $1/50$

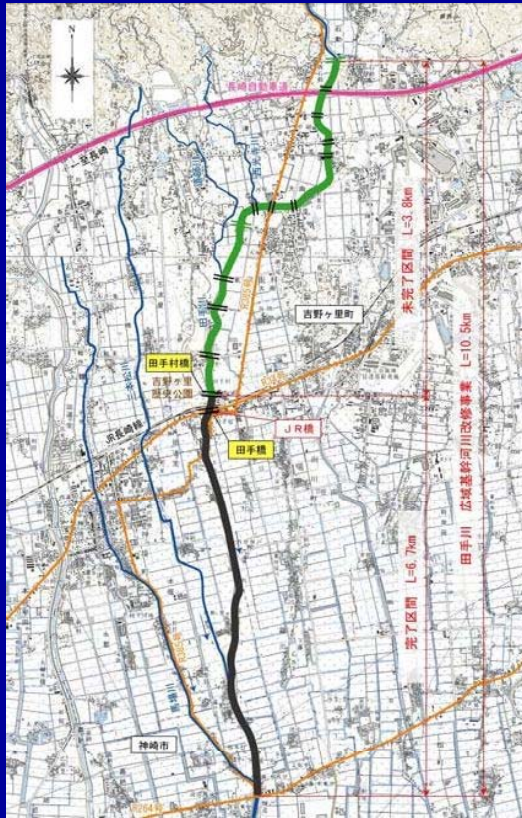
事業概要



着手年度	昭和41年
事業地	神崎市、吉野ヶ里町
全体事業費	30,610百万円 (H24末:70%)
事業期間	S41~H35
改修延長	16,300m
計画流量	$490\text{m}^3/\text{s}$
計画治水安全度	$1/50$
実施内容	掘削・築堤・護岸、排水機場 2箇所、樋管7基、橋梁43基、 堰19基
費用対効果	5.1

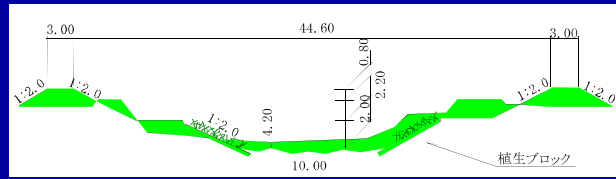
■田手川

位置図



事業進捗状況

標準横断面図



事業概要

・改修延長L=10.5km

掘削、築堤、護岸、排水機場2箇所、
橋梁22基、堰12基

完了区間	——
未完了区間	——

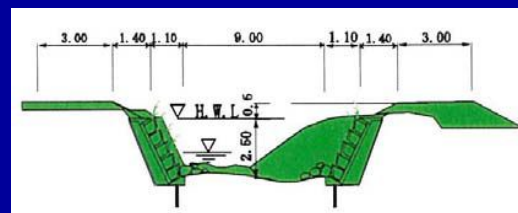
■馬場川

位置図



事業進捗状況

標準横断面図



事業概要

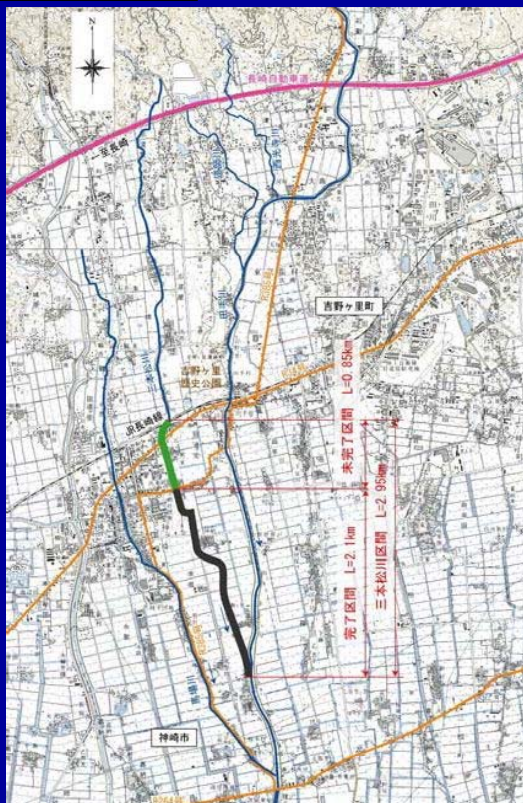
・改修延長L=2.9km

掘削、築堤、護岸、
橋梁8基、堰3基

完了区間	——
未完了区間	——

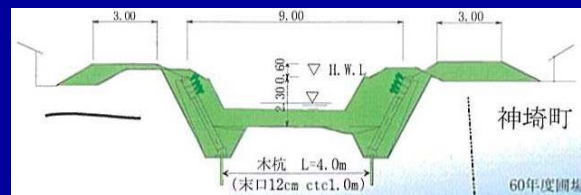
■三本松川

位置図



事業進捗状況

標準横断面図



事業概要

・改修延長L=2.95km

掘削、築堤、護岸、
橋梁13基、堰4基

完了区間	—
未完了区間	—

費用対効果 B/C

総費用額C : 治水施設の整備及び維持管理に要する総費用

総便益額B : 治水施設整備によってもたらされる総便益額(被害軽減額)

(総費用額C及び総便益額Bをそれぞれ現在価値化し比較する)

総費用 C : 69,754百万円

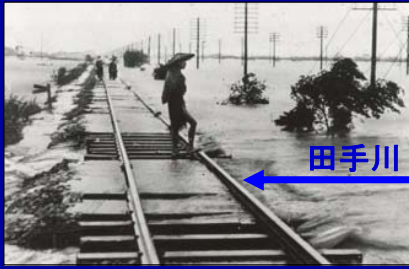
総便益 B : 356,108百万円

《内訳》

- ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所資産、農漁家資産) 127,434百万円
- ・農作物被害(水稻、畑作物) 2,657百万円
- ・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁、農地等) 215,872百万円
- ・間接被害(事業所の営業停止被害、応急対策被害等) 10,051百万円
- ・残存価値 94百万円

費用対効果 B/C = 356,108 / 69,754 = 5.1

田手川 過去の浸水状況



田手川

《昭和28年6月 出水状況》



《昭和47年6月 出水状況》



田手川

《昭和57年7月 出水状況》

昭和28年6月(集中豪雨)
 浸水面積 : 2,350ha
 床上浸水戸数: 990戸
 床下浸水戸数: 1,550戸



馬場川

《平成2年7月 出水状況》



《平成21年7月 出水状況》



《平成21年7月 出水状況》

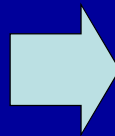
改修前後の状況(田手川)

田手村橋周辺



田手川

改修前



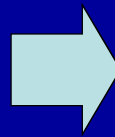
田手川

改修後

JR橋上流



田手川



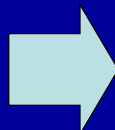
田手川

改修前後の状況(三本松川)

神埼町田道ヶ里周辺



改修前



神埼町本堀周辺



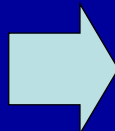
改修後

改修前後の状況(馬場川)

神埼町本堀周辺



改修前



改修後

今後の整備箇所状況(田手川)

河原橋(国道385号)直上流



橋梁改築により、
一部改修計画で
河道が広がっている。

未改修である
上流区間は、
川幅が狭い。

固定堰が高く、
河川の断面が小さい
↓
洪水による氾濫が起きやすい

自然環境及び周辺景観に配慮した整備

事業個所に隣接する吉野ヶ里歴史公園の整備イメージと整合した河川空間となるよう、緩傾斜の堤防や水際線の引き込みなどにより、充実した水辺空間を確保する。



今後の田手川広域河川改修 事業の継続について

☆河川改修の効果☆

①治水安全度の向上

②過去の浸水被害の軽減

◎昭和28年6月洪水

(浸水家屋: 2, 540戸、浸水面積: 2, 350ha)

◎平成2年7月洪水

(浸水家屋: 487戸、浸水面積: 3, 390ha)

◎平成21年7月洪水

(浸水家屋: 17戸、浸水面積: 707ha)

③地域住民の安心・安全の確保

☆今後の事業展開☆

- ・事業を継続し、早期完成を図りたい
- ・残る上流区間は、まず暫定施工(1/10)を行うことにより治水効果の早期発現を図りたい。